

教育学研究科 教職実践開発専攻（教職大学院）

学校管理職養成コース

学校管理職臨床実習

（小・中・高校籍）

手引き

2020.4

岐阜大学教職大学院

学校管理職臨床実習

全体編

「学校管理職臨床実習」の全体像

1 「学校管理職臨床実習」の目的

本専攻の「学校管理職臨床実習」は、学校マネジメント力を習得し、自律的及び協働的な学校運営のできる管理職を目指し、教育行政機関やシニア校長・教頭の勤務する学校での実習、勤務校での実習を通して、岐阜県教育の未来を担うリーダーとしての実践力育成をねらいとする。

2 「学校管理職養成コース」の2年間の履修イメージ

		M1		M2	
		前期	後期	前期	後期
学校管理職養成	必修／ 選択科目	講義	講義	講義（金曜日）	講義（金曜日）
	臨床実習	教育行政実習	学校経営実習 I	学校経営実習 II	
	開発実践 報告	開発実践報告		開発実践報告	
		ゼミ（随時）		ゼミ（金曜日）	

3 「臨床実習」の種類

種類	単位数（時間）	実習時期	実習先	実習の特性
教育行政実習	3単位 (90)	1年次 8月～9月	教育委員会及び関係機関 (県・市町村)	ヒアリング・部分体験 インターン実習
学校経営実習 I	3単位 (90)	1年次 1～2月	指定校(教育委員会との協議の うえ決定)	シャドローイング実習 メンタリング実習
学校経営実習 II	4単位 (120)	2年次 4月～6月	勤務校	職務遂行能力の開発 (インターン実習及び部分体験実習) 学校課題解決実習

4 「臨床実習」の指導体制

1 チームによる指導

「学校管理職臨床実習」の指導はチームで行う。このチームは、研究者教員、実務家教員、実習先のメンターティーチャーで構成する。

一人の実習者に対して、組織的な指導を行う。実務家教員と研究者教員は協働して実習先を巡回訪問し、メンターティーチャーとの協議、実習者の指導・面談を行い、実習の展開状況を把握する。それぞれの実習を終えた段階ごとに報告会を実施する。

実習指導担当者の役割は、以下のとおりとする。

	実習指導担当者	役 割
大 学	研究者教員	実習者の実践に対する問題意識や課題に関する指導や確認を行う。 実習計画及び実習全体にわたる指導を行う。
	実務家教員	大学と実習先の間において、実習全体の運営計画を作成し、実習者の個別実習計画作成の指導を行う。実習先での実習に関して調整業務を行う。
実習先	メンター ティーチャー	実習先での現場職員で、実習者の直接の指導を日常的に担当する。

2 「臨床実習」指導の基本的な手続

(ア) オリエンテーション

研究者教員と実務家教員が、実習者の実習に対する問題意識や課題を確認するとともに、個別の実習計画書の作成、自己省察のためのポートフォリオ等の資料の蓄積及び活用の在り方を指導する。

(イ) 実習先との打ち合わせ

実習先で、メンターティーチャーと実習に関わる打合せを行う。実習の計画については、事前に研究者教員、実務家教員と実習者が実習先に出向き協議する。

(ウ) 巡回指導

実習中、定期的に研究者教員・実務家教員が実習先を訪問し、実習経過を把握するとともに実習者の指導を行う。

(エ) 実習成果の発表

実習の終了後には、実習記録と報告書をもとに報告会等で成果発表会を行う。

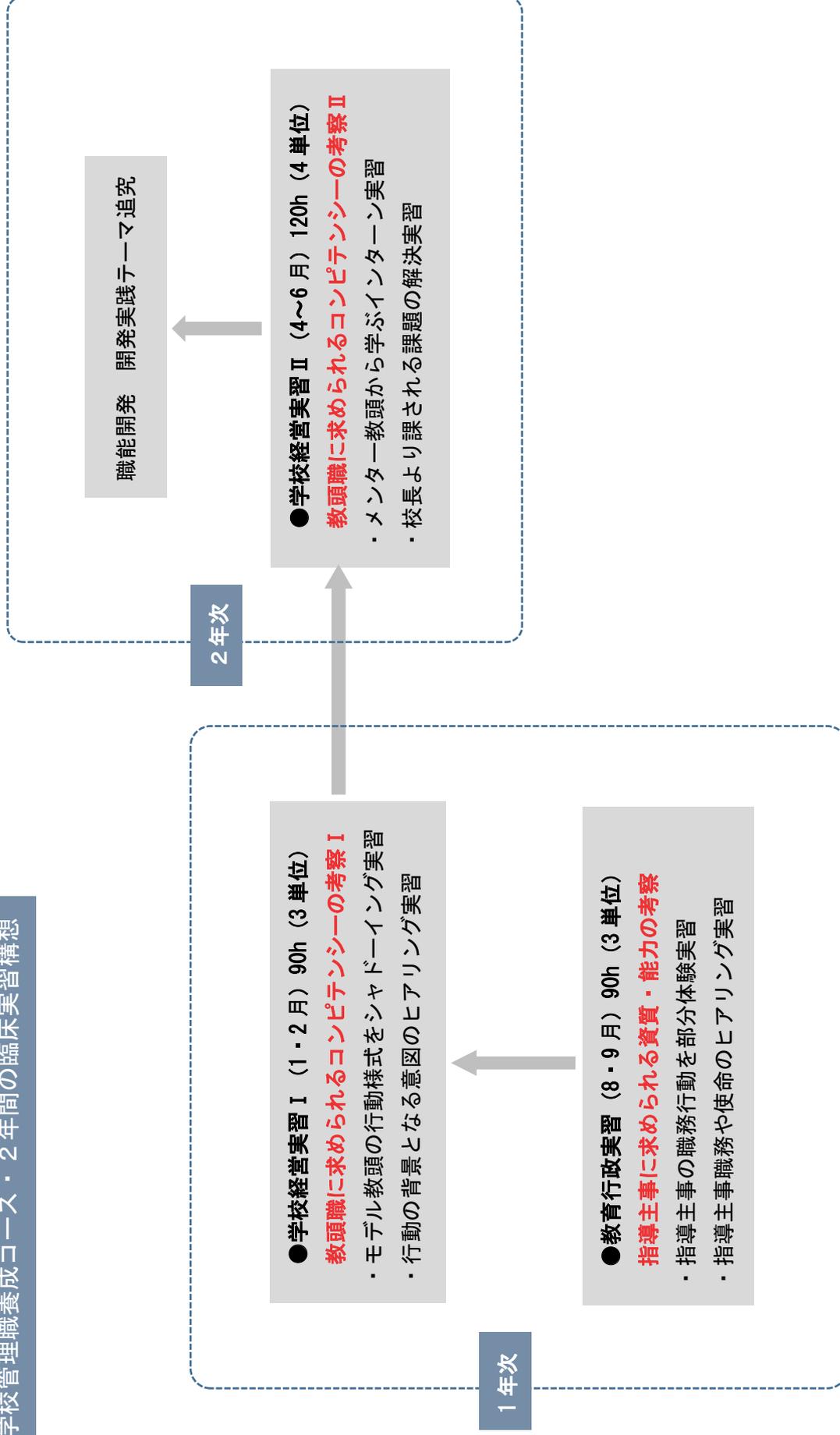
(オ) 実習の評価

実習評価票（後載）に基づき、実習内容の理解、実習の意欲・態度、実習成果等を研究者教員と実務家教員、メンターティーチャー（複数の場合もある。）の3者により評価する。

単位認定は、メンターティーチャーの評価を参考として、研究者教員と実務家教員の協議において行う。

* 各実習の関連性、大学・県教委・市町村教委・学校の連携連絡体制を次頁より図示
* 各実習の構想や計画等の具体については各実習の頁を参照

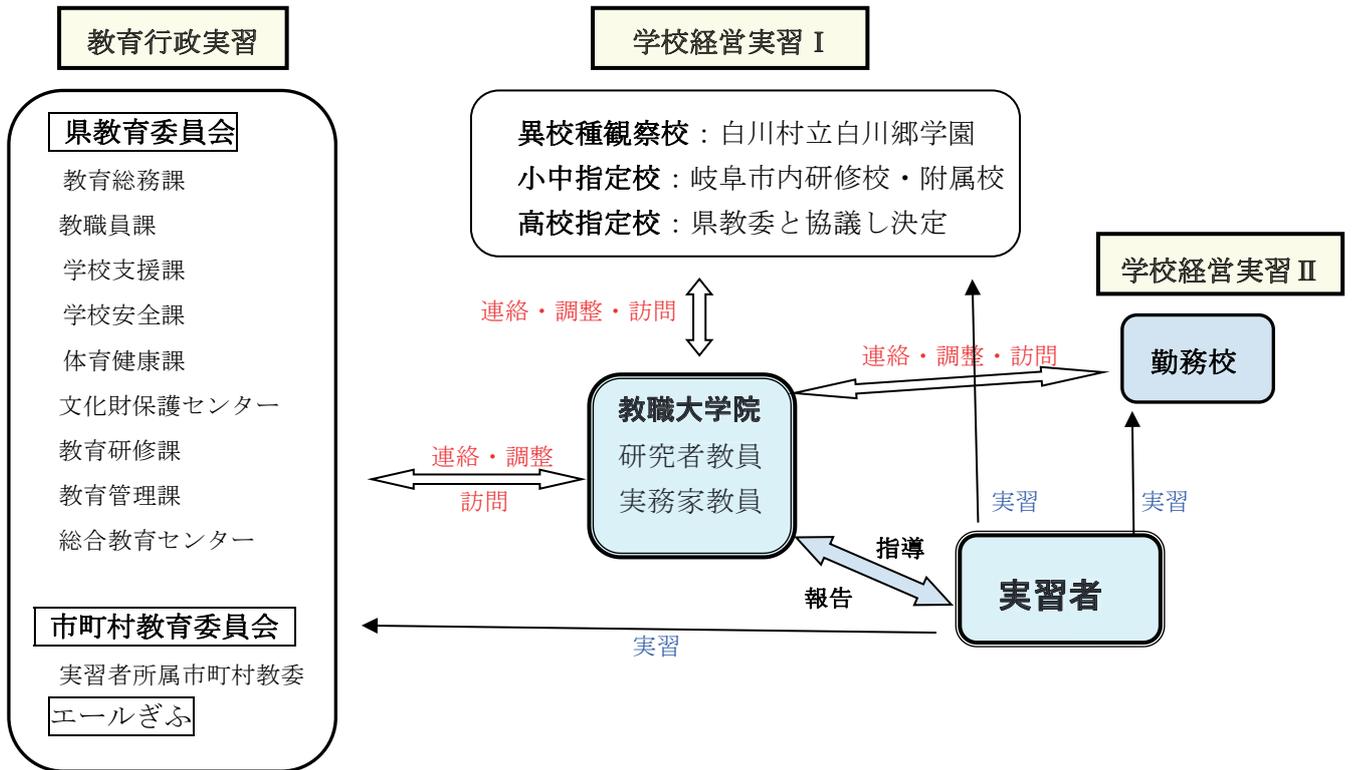
学校管理職養成コース・2年間の臨床実習構想



学校管理職養成コース（小中・高校籍）実習概要

種類・時期等	実習形態・内容	実習機関等
<p>教育行政実習 (8月～9月) 90h：3単位</p>	<p>●インターン実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育行政職の基礎的業務に部分参加し指導主事の行動様式、職務内容を理解し、指導主事に求められる資質・能力を探る。 ・実習での実践知を基に履修した教育政策の理論について、更に認識を深める。 	<p>■岐阜県の行政機関 県教委各課ヒアリング 指導主事職務インターン ＜小中籍＞教員6年目研修 ＜高校籍＞教員6年目研修、教育課程講習会、文化財保護センター</p> <p>■市町村の行政機関 小中籍実習者の派遣元市町村教委</p> <p>■複合型の行政機関 エールぎふ（岐阜市子ども・若者総合支援センター）</p>
<p>学校経営実習 I (1月～2月) 90h：3単位</p>	<p>●シャドーイング実習・特色ある学校経営観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校のモデル教頭の日常行動をシャドーイングするとともに、行動の意味をヒアリングし、職務内容を理解する。 ・モデル教頭の行動様式や行動意図を分析し、教頭職務のコンピテンシーを考察する。 ・特色ある学校経営の理念や実践を観察し、経営発想や企画力の向上を図る。 	<p>■指定校 ＜小中籍＞ 岐阜市内研修校・附属校 ＜高校籍＞ 県教委指定の高校</p> <p>■特色ある経営観察校 義務教育学校（白川郷学園）</p>
<p>学校経営実習 II (4月第1週～6月最終週) 120h：4単位</p>	<p>●インターン実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務校のメンター（首席教頭）に学びながら教頭職務インターン実習を行い、職務遂行能力を高める。 ・校長より与えられる課題を分析し、解決策の立案と実践を進め、職務遂行能力を高める。 ・職能開発での実践知を基に、教頭職務のコンピテンシーを考察する。 	<p>■勤務校 2年目に各人が勤務する学校</p>

<連携連絡体制>



教育行政実習

3 単位

(90 時間)

教育行政実習構想

90 時間：3 単位

指導主事に求められる資質・能力
教育行政の役割、学校管理職との連携
複合型支援機関の現状、学校との連携

- ・ 教育施策の必然や背景の理解
- ・ 職務遂行の実情や問題点の理解
- ・ 指導主事職務遂行の部分体験

- ・ 実習課題の把握
- ・ 実習目的の明確化

- ・ 指導主事の行動様式、職務内容の理解
- ・ 教育行政についての認識の深化

報告書作成

実習の分析と考察

各機関でのインターン実習

オリエンテーション

実習機関リサーチ

課題提供

- ・ リサーチ交流
- ・ 分析と考察の指導

- <事前指導>
 - ・ 実習課題（目的）の設定
 - ・ 実習機関リサーチ指導

- ・ リサーチ交流
- ・ 分析と考察の指導

- <実習機関への依頼と説明>
 - ・ 行政実習の趣旨
 - ・ リサーチと実習計画
 - ・ 実習評価の説明

- <県教委・市教委・エールぎふで現地指導>
 - 県・県教委（7課）でのヒアリング
 - 市・教員研修講座等の場で研修運営の部分体験
 - 市・各市の教育ビジョンや施策のヒアリング
 - 市・学校訪問指導体験、議会対応の観察
 - 市・複合型支援機関の機能や役割のヒアリング
 - 市・支援活動の部分体験

- <事中・事後指導>
 - ・ 実習記録、報告書の確認
 - ・ 実習の分析と考察の指導助言
 - ・ 実習機関での報告会に参加指導

報告会
全体会での成果報告
課題別のグループワーク

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍）教育行政実習 実施計画例 90h（3単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点				
				企画	観察	理解	考察	プレ
1	オリエンテーション	大学院	実習の意義、指導主事の職務と行動様式の概要把握	○		◎		
2	実習計画の作成	大学院・実習機関	各機関の概要把握とインターン実習計画作成	◎		○		
3	実習機関リサーチ	各実習機関	県教委関係（県庁内、教育センター）実習の内容調整	○		◎		
4		県文化財保護センター（高2）	県の文化資源の保護と啓発の部分体験実習 ・教員研修会での啓発活動の運営	◎				○
		県教委ヒアリング（小中2・高2）	県教委の職務内容と問題対応のヒアリング実習 ・教育総務課、教職員課、教育管理課、学校安全課、体育健康課、学校支援課、特別支援教育課の職務			◎	○	○
13	インターン実習 岐阜県の行政機関 市町村の行政機関 総合型の行政機関	県教委インターン（小中2・高4）	県教委による教員研修システムの部分体験実習 ・高校教育課程講習会の準備と運営（支援課） ・教員6年目研修の準備と運営（研修課）	◎		○		○
		市町村教委（小中4）	地教委の機能と役割、職務形態の部分体験実習 ・教育長講話、各市町村の課題と教育ビジョン ・学校管理訪問、人事管理、議会対応 ・施設（図書館、科学館等）の運営		◎	○	○	
14	分析・考察	エールぎふ（小中2・高2）	教育・福祉・医療等の総合的支援の部分体験実習 ・総合的支援体制の運営と管理 ・虐待対応などの支援の実情 ・自立支援教室等の施設で支援活動		◎	○	○	
		関係機関等	教育行政職に求められる資質・能力の考察	○			◎	
15	全体報告会	教職大学院	教育行政職実習の成果報告・討論			◎	○	◎

教育行政実習計画

実習者		実習場所	.	.
-----	--	------	---	---

教育行政実習 【一年次 8月・9月】				
	事前			
月	日	曜	実習内容	実習場所
8				
9				
10	事後			

教育行政実習記録

月 日 曜日		実習者【 】	実習場所【 】
本日の 実習課題			
実 習 の 記 録			
00:00 ~ △△: △△			
課題 について の実習 内容等			
メンター ティーチャー	⑩	指導教員（大学教員）コメント	

【留意点 1】 記録とともに入手資料についても必ず添付しておくこと

(記入に当たって)

※青の部分は実習者が記入

様式学管 1

令和〇〇年度		学校管理職臨床実習		岐阜大学教職大学院	
教育行政実習評価票					
MI	氏名	〇 〇 〇 〇	専攻	教育学研究科教職実践開発専攻 (教職大学院)	
実習機関		〇 〇 〇 〇			
実習期間		令和〇〇年〇月〇〇日 (〇) ~ 令和〇〇年 〇月〇〇日 (〇)			
総出席日数 (〇) 日 (〇) 時間			遅刻回数 (〇) 回 (〇) 時間 → 通常はゼロを記入		
欠席日数 (〇) 日 (〇) 時間 → 通常はゼロを記入			早退回数 (〇) 回 (〇) 時間 → 通常はゼロを記入		
実施した実習等の時数		実習内容を記入		〇 時間	
				時間	
				時間	
				時間	
		合 計		〇 時間	
提出物確認		<input type="checkbox"/> 臨床実習計画 <input type="checkbox"/> 臨床実習記録 (〇 枚) <input type="checkbox"/> 臨床実習報告書			
所見	<p>・メンターティーチャー (実習先での現場職員で、実習者の直接の指導を担当する方) で記入をお願いします。</p> <p>・実習態度を含めて、短いコメントで結構です。</p>				
種別	評 価 要 素			評 定	
教育	1	教育行政把握力		S A B C D	
行政	2	教育行政実務能力		S A B C D	
総合評価	S A B C D		メンターティーチャー	〇 〇 〇 〇 印	
	(秀) (優) (良) (可) (不可)	メンターティーチャー	印		

※2 項目の評価と総合評価をお願いします。

岐阜大学教育学研究科 教職実践開発専攻代表 様

以上のとおり評価しましたので報告します。

令和 〇 年 〇 月 〇 日

私印で結構です。

行政機関名 〇 〇 〇 〇

代 表 〇 〇 〇 〇 印

以下は大学で記入

<判定>上記の臨床実習について次のとおり判定する。(S、A、B、Cは単位認定、Dは単位認定不可)

判 定	S	A	B	C	D	(所見)
	(秀)	(優)	(良)	(可)	(不可)	

大学担当教員

印

評価基準（教育行政実習）90h：3単位

	S	A	B	C	D
教育行政把握力	教育行政の役割や機能を的確に理解・分析し、指導主事に求められる使命を多面的に考察できた。	教育行政の役割や機能を的確に理解し、指導主事に求められる使命を考察できた。	教育行政の役割や機能、指導主事に求められる使命を理解できた。	教育行政の役割や機能、指導主事に求められる使命を概ね理解できた。	教育行政の役割や機能、指導主事に求められる使命の理解が不十分であった。
教育行政実務能力	指導主事の職務内容を的確に理解・分析し、実務の部分体験を遂行できた。	指導主事の職務内容を的確に理解し、実務の部分体験を遂行できた。	指導主事の職務内容が理解でき、実務の部分体験を遂行できた。	指導主事の職務内容を概ね理解し、実務の部分体験の遂行が概ねできた。	指導主事の職務内容の理解が不足し、実務の部分体験の遂行が不十分であった。

学校経営実習 I

3 単位

(90 時間)

学校経営実習 I 構想

90 時間：3 単位

実習 II インターン教頭として職能開発実習

実習報告会

指定校 大学の
教頭の行動様式の分析結果を報告
教頭職務のコンピテンシーを交流

実習の分析と考察

< 事中・事後指導 >

- ・実習記録、報告書の確認
- ・実習の分析と考察の指導助言
- ・実習機関での報告会に参加指導

シャドーイング実習

< 異校種学校・指定校での現地指導 >

- ・異校種 義務教育学校白川郷学園
- ・小中 指定校 10 校 (各校 1 名で実習)
- ・高校 指定校 2 校 (各校 1 名で実習)

オリエンテーション

< 事前指導 >

- ・実習課題と教頭職務行動の概要

< 実習機関との連携 >

- ・指定校への趣旨説明 (小中・高)
- ・異校種学校との打合せ

大学の指導

モデル教頭の職務行動分析



- ・教頭に求められるコンピテンシー
- ・次年度 (インターン教頭) のビジョン設定

- ・指定校の経営計画リサーチ
- ・教頭の職務行動シャドーイング
- ・教頭の行動意図メンタリング
- ・校長の経営理念メンタリング

- ・実習課題の把握
- ・実習計画の明確化

実習課題

モデル教頭の校長補佐・校務整理行動の観察
有能教頭の行動特性 (コンピテンシー) の考察

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍）学校経営実習Ⅰ 実施計画例 90h（3単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点				
				企画	観察	理解	考察	プレ
1	オリエンテーション	教職大学院	実習の意義、教頭の職務内容と行動様式の概要把握	○		◎		
2	異校種観察実習	義務教育学校	小中一貫の学校経営理念と管理職行動の観察・ヒアリング実習		○	◎		○
3	指定校リサーチ1	指定校	指定校の学校課題と学校経営計画のヒアリング			◎	○	
4	指定校リサーチ2	指定校	指定校実習の計画作成と日程調整	◎			○	
5	指定校実習1	指定校						
6	指定校実習2	指定校	モデル教頭の職務内容と行動様式シャドローイング					
7	指定校実習3	指定校	行動様式の背景となる理念や判断、躊躇等のヒアリング			◎	○	
8	指定校実習4	指定校	校長の経営プラン、教頭に求める行動様式等ヒアリング					
9	指定校実習5	指定校	教頭行動による職員への啓発や波及効果のヒアリング					
10	指定校実習考察1	指定校等	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の考察	○			◎	
11	指定校実習考察2	指定校等	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の考察	○			◎	
12	指定校報告会	指定校	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の報告	○				◎
13	分析・考察1	研究室・指定校等	シャドローイング・ヒアリングから教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
14	分析・考察2	研究室・指定校等	シャドローイング・ヒアリングから教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
15	全体報告会	教職大学院	実習の成果報告・教頭職コンピテンシーについて討論			◎	○	◎

学校経営実習Ⅰ計画

実習者		観察校	学校	指定校	学校
-----	--	-----	----	-----	----

学校経営実習Ⅰ【一年次 1～2月】			
	事前		
月	日	曜	実習内容
1			
2			
	事後		

【留意点1】計画については、観察校及び指定校のメンターティーチャーと調整し作成する。

(記入に当たって)

様式学管2

令和〇〇年度		学校管理職臨床実習			岐阜大学教職大学院		
		学校経営実習Ⅰ(指定校)評価票					
M1	氏名	専攻	教育学研究科教職実践開発専攻(教職大学院)				
指定校							
実習期間		令和 年 月 日() ~ 令和 年 月 日()					
総出席日数 ()日()時間			遅刻回数()回()時間				
欠席日数 ()日()時間			早退回数()回()時間				
実施した実習等の時数	実習者が記述をして準備					時間	
						時間	
						時間	
						時間	
						時間	
	合計					時間	
提出物確認		<input type="checkbox"/> 臨床実習計画 <input type="checkbox"/> 臨床実習記録(枚) <input type="checkbox"/> 臨床実習報告書					
所見	「意欲的な実習ぶりであった。」程度の簡潔な文で結構です。						
種別	評価要		「項目別評価」とそれをもとに「総合評価」をつけください。				
学校 経営 実習 Ⅰ	1	シャドーイングによる観察力	S	A	B	C	D
	2	メンティーとしての理解力	S	A	B	C	D
	3	リーダーシップについての考察力	S	A	B	C	D
	4	リーダーシップについてのプレゼンテーション力(訴求力、伝達力)	S	A	B	C	D
総合 評価	S	A	B	C	D	メンターティーチャー	教頭先生の氏名 印
	(秀)	(優)	(良)	(可)	(不可)	メンターティーチャー	印

教頭先生お一人で結構です。

私印で結構です

岐阜大学教育学研究科 教職実践開発専攻代表 様

以上のおり評価しましたので報告します。

令和 〇 年 〇 月 〇 日

指定校名 〇〇立〇〇学校

校長 校長先生氏名

印

<判定>上記の臨床実習について次のとおり判定する。(S、A、B、Cは単位認定、Dは単位認定不可)

判定	S	A	B	C	D	(所見)
	(秀)	(優)	(良)	(可)	(不可)	
指定校評価を参考に、大学での報告会の様子等を加味して、大学側で最終評価を行います。						

大学担当教員

印

評価基準（学校経営実習Ⅰ） 90h：3単位

	S	A	B	C	D
シャドーイングによる観察力	モデル管理職（教頭）の職務行動を細部まで観察し、的確に記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、的確に記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、概ね記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動の観察記録が不十分であった。
メンテナーとしての理解力	管理職（校長、教頭）へのヒアリングを多面的に行い、背景となる行動意図を的確に理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングを基に背景となる行動意図を的確に理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングを基に背景となる行動意図を理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングを基に背景となる行動意図を概ね理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングが不足し、背景となる行動意図の理解が不十分であった。
リーダーシップについての考察力	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」についての確且つ多面的に考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」についての確に考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について概ね考察できた。	シャドーイングやヒアリングが不足し「管理職に求められる資質・能力」について考察できなかった。
リーダーシップについてのプレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、的確な考察を基に説得力あふれるプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、考察を基に的確なプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションができ	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが概ねできた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

学校経営実習 II

4 単位

(120 時間)

学校経営実習Ⅱ構想

120時間：4単位

教頭の実務遂行、課題解決行動分析



- ・教頭職コンピテンシー考察
- ・今後の職務課題の設定

実習の分析と考察

- ・ 主席教頭をメインターに職務遂行実践
- ・ 校長から付与された課題解決行動

<事中・事後指導>

- ・ 実習記録、報告書の確認
- ・ 実習の分析と考察の指導助言
- ・ 勤務校での報告会に参加指導

インタビュー・課題解決実習

実習計画の作成

- ・ 校務分掌の把握
- ・ 学校の課題リサーチ

<事前指導>

- ・ 実習課題と実習用途の指導

オリエンテーション

実習課題

- 主席教頭に学ぶ年度当初実務インタビュー実習
- 校長より付与される課題解決実習

<実習機関連携>

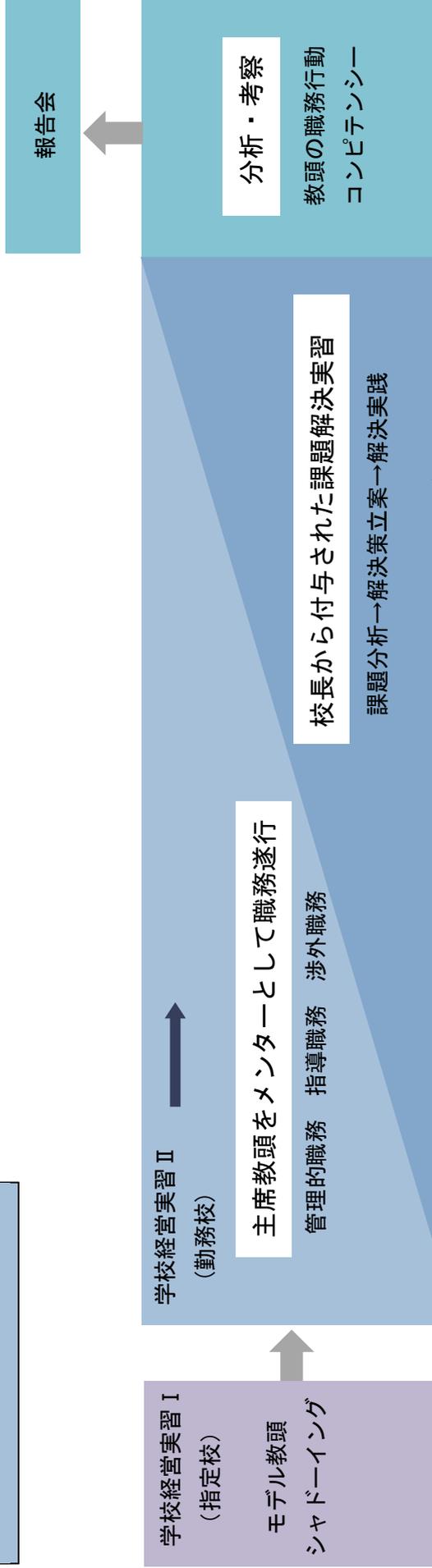
- ・ 勤務校への実習趣旨説明
- ・ 実習評価基準説明

実習Ⅰ モデル教頭のシャドローイング実習

大学の支援

- ・ 勤務校 教頭実務、課題解決行動の報告
- ・ 大学 教頭職務のコンピテンシー交流

学校管理職養成コース（小中・高）
学校経営実習Ⅱ イメージ



インターン実習例

- 管理的職務**
- ・ 年度当初の提出書類、学校備付表簿、年間行事
 - ・ 学校予算（備品、修繕等）、徴収金、要保護家庭
 - ・ 防災計画、防火消防設備、薬品管理、通学路
- 指導的職務**
- ・ 職員の手引・評価、主任層との連携、研究推進の示唆
 - ・ 要援助児童生徒の把握と指導体制、いじめ未然防止
 - ・ 危機管理マニュアル、緊急時の関係機関連携

課題解決実践例

- インクルーシブ教育推進モデル開発**
- 課題のある外国人児童への指導
 - コミュニティースクールの改善
 - 校区連携の生徒指導体制づくり
 - 働き方改革（労務管理）の推進
 - 学校生活不適応児童ケース会支援
- 学科改編に向けカリキュラム開発**
- 職員の参画意識向上システム開発
 - 研究推進委員会の見直しと改善
 - ミドルリーダーの育成
 - 学校支援スタッフの活用
 - 総合的な学習の時間の改善

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍） 学校経営実習Ⅱ 実施計画例 120h（4単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点			
				企画	実践	理解	考察 プレ
1	オリエンテーション	大学院	実習の意義、インターン・課題解決実習の課題把握	○		◎	
2	実習計画の作成	大学院・勤務校	メンター（校長・教頭）との連携、実習計画の作成	◎		○	
3	インターン実習1	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
4	インターン実習2	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
5	インターン実習3	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
6	インターン実習4	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
7	インターン実習5	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
8	インターン実習6	勤務校	首席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○	
9	課題解決実習1	勤務校	校長より指導を受けて解決すべき学校課題を設定			◎	○
10	課題解決実習2	勤務校	課題の分析と解決実施の計画作成	○			◎
11	課題解決実習3	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎		○
12	課題解決実習4	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎		○
13	課題解決実習5	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎		○
14	課題解決実習6	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎		○
15	実習考察1	勤務校等	教頭の職務内容、求められる資質力量考察	○			◎
16	実習考察2	勤務校等	教頭の職務内容、求められる資質力量考察	○			◎
17	勤務校報告会	勤務校	教頭の職務内容、求められる資質力量報告	○			◎
18	教頭職務の分析1	研究室・勤務校等	インターン・課題解決実習から教頭職コンピテンシー考察	○			◎
19	教頭職務の分析2	研究室・勤務校等	インターン・課題解決実習から教頭職コンピテンシー考察	○			◎
20	成果報告会	教職大学院	実習の成果報告・教頭職コンピテンシーについて討論			◎	○ ◎

学校経営実習Ⅱ計画

実習者		実習校	学校
-----	--	-----	----

学校経営実習Ⅱ 【二年次 4～6月】	
事前	
月	実習内容
4	
5	
6	
事後	

【留意点1】計画については、勤務校校長（教頭）と調整し作成する。

学校経営実習Ⅱ記録

月 日 曜日		実習者【 】	実習校【 】
実習課題			
時期	実習の記録		
課題 について の実習 内容等			
メンター ティーチャー	④	指導教員（大学教員）コメント	

【留意点1】 記録とともに入手資料があれば必ず添付しておくこと

(記入に当たって)

令和〇〇年度		学校管理職臨床実習			岐阜大学教職大学院					
		学校経営実習Ⅱ (勤務校) 評価票								
M2	氏名		専攻	教育学研究科教職実践開発専攻 (教職大学院)						
実習校										
実習期間		令和 年 月 日 () ~ 令和 年 月 日 ()								
総出席日数 ()		網掛け部分は実習者が記述をして準備								
欠席日数 ()										
実施した実習等の時数					時間					
					時間					
					時間					
					時間					
		合 計			時間					
提出物確認		<input type="checkbox"/> 臨床実習計画 <input type="checkbox"/> 臨床実習記録 (枚) <input type="checkbox"/> 臨床実習報告書								
所見	特に問題がなければ、1行程度の端的な文章で結構です。									
種別	評 価 要		「項目別評価」とそれをもとに「総合評価」をつけください。							
学校 経営 実習 Ⅱ	1	データ分析力			S	A	B	C	D	
	2	課題発見力			S	A	B	C	D	
	3	課題分析力			S	A	B	C	D	
	4	課題解決力			S	A	B	C	D	
	5	プレゼンテーション力 (訴求力、伝達力)			S	A	B	C	D	
総合 評価	S	A	B	C	D	メンターティーチャー		教頭先生の氏名		印
	(秀)	(優)	(良)	(可)	(不可)	メンターティーチャー				印

教頭先生お一人で結構です

岐阜大学教育学研究科 教職実践開発専攻代表 様

以上のおり評価しましたので報告します。

令和 〇〇 年 〇 月 〇 日

私印で結構です

勤務校名 〇〇立〇〇学校

校長 校長先生氏名 印

以下は大学で記述します。(実習校の評価も加味しつつ、実習記録や大学での報告会を経て、大学にて最終判定をします。)

<判定>上記の臨床実習について次のとおり判定する。(S、A、B、Cは単位認定、Dは単位認定不可)

判 定	S	A	B	C	D	(所見)
	(秀)	(優)	(良)	(可)	(不可)	

大学担当教員

印

評価基準（学校経営実習Ⅱ）小中学校用 120h：4単位

	S	A	B	C	D
データ分析力	情報収集や実態調査等を継続的に行い、付与課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を概ね分析できた。	情報収集や実態調査等が不足し、付与課題の分析ができなかった。
課題発見力	エビデンスを示し、問題点を的確で訴求力がある報告ができた。	エビデンスを示し、問題点を的確に報告できた。	エビデンスを示し、問題点を報告できた。	エビデンスを示し、問題点の報告が概ねできた。	エビデンスが不明瞭であり、問題点の報告ができなかった。
課題分析力	問題解決に向け、現状分析（学校の強み・弱み）を活かした解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を説明できた。	問題解決に向け、解決策について概ねの説明ができた。	問題解決に向け、解決策を説明できなかった。
課題解決力	教頭としての的確な判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行でき、成果を出した。	教頭としての的確な判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行できた。	教頭としての判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行できた。	教頭としての判断や報告、職員への指導を行い、解決行動が概ねできた。	教頭としての判断や報告、職員への指導が不足し、解決行動ができなかった。
プレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、的確な考察を基に説得力あふプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、考察を基に的確なプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが概ねできた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

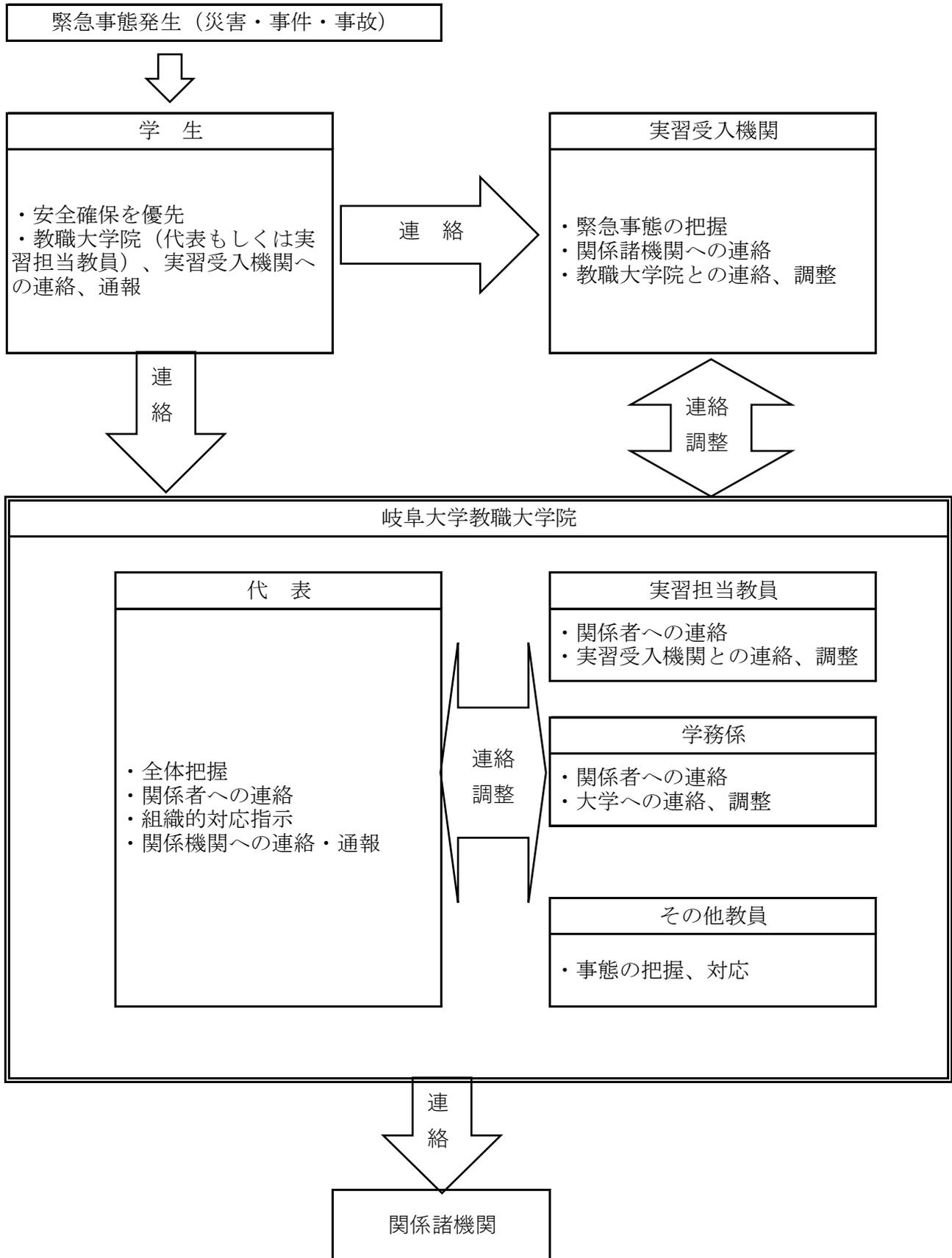
評価基準（学校経営実習Ⅱ）高等学校用 120h：4単位

	S	A	B	C	D
データ分析力	情報収集や実態調査等を継続的に行い、付与課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を分析できた。	情報収集や実態調査等を基に付与課題を概ね分析できた。	情報収集や実態調査等が不足し、付与課題の分析ができなかった。
課題発見力	エビデンスを示し、問題点を的確で訴求力がある報告ができた。	エビデンスを示し、問題点を的確に報告できた。	エビデンスを示し、問題点を報告できた。	エビデンスを示し、問題点の報告が概ねできた。	エビデンスが不明瞭であり、問題点の報告ができなかった。
課題分析力	問題解決に向け、現状分析（学校の強み・弱み）を活かした解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を説明できた。	問題解決に向け、解決策について概ねの説明ができた。	問題解決に向け、解決策を説明できなかった。
課題解決力	管理職への的確な報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行でき、成果を出した。	管理職への的確な報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行できた。	管理職への報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行できた。	管理職への報告、職員との連携を行い、解決行動が概ね遂行できた。	管理職への報告、職員との連携が不足し、解決行動が遂行できなかった。
プレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	管理職（教頭）のコンピュータについて、的確な考察を基に説得力あふプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピュータについて、考察を基に的確なプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピュータについて、プレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピュータについて、プレゼンテーションが概ねできた。	管理職（教頭）のコンピュータについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

緊急時の対応

学外実習時における緊急時の対応の流れ

岐阜大学教育学研究科教職実践開発専攻



気象警報発表時及び交通障害時における授業の取扱いについて

平成27年2月17日

教学委員会承認

岐阜大学（附属学校を除く。）では、「特別警報」^(注)・「暴風警報」発表時及び公共交通機関の運行停止時の授業・試験の取扱いは、次のとおりとする。

1. 気象警報発表時の取扱い

(1) 岐阜市に「特別警報」又は「暴風警報」が発表された場合は、以下のとおり休講とする。

①午前6時30分現在、「特別警報」又は「暴風警報」が発表されている場合、午前の授業を休講とする。

②午前11時現在、「特別警報」又は「暴風警報」が発表されている場合、全日の授業を休講とする。

(2) 授業開始以降に岐阜市に「特別警報」又は「暴風警報」が発表された場合もしくは気象状況の悪化が予測される場合の取扱いは、理事（教学・附属学校担当）の判断により決定する。

2. 災害又はストライキ等による交通障害時の取扱い

災害又はストライキ等により、東海道本線の名古屋-大垣間、名鉄本線の名鉄名古屋-名鉄岐阜間が共に運休した場合又は岐阜駅からのバスが運休した場合は、上記1に準じた取扱いとする。

3. 上記によりがたい場合は、学長及び理事（教学・附属学校担当）が協議の上決定し、各学部へ通知する。

4. 上記1～3により授業を休講する場合は、原則、本学のホームページに掲載するものとするが、1の(1)①の午前6時30分現在については、ホームページへの掲載が遅れることが予想されるので、各自がテレビ・ラジオ・インターネット等で確認するものとする。

(注)「特別警報（気象）」は、警報の発表基準をはるかに超える大雨、暴風、暴風雪、大雪などに対して発表される